

諏訪の杜っ子

令和4年5月16日(月)
福津市立福間小学校
文責 校長

人とつながって表現し、納得できる(笑い合う)子供の育成
コラボ&トライ

自分で歩き、福津を感じた春の遠足

5月6日(金)、帰りに小雨がぱらつきましたが、日射しはそう強くなく、子供達が楽しみにしていた遠足を実施することができました。



「友達とお弁当を食べて、お話もできた。ヤギと馬がいたよ」(低学年)「坂を下りるとき、風が吹いて気持ちよかった」(中学年)「松林をぐるっと回って涼しかった。ハルゼミの鳴き声を聞いた」(高学年) 子供達は、教室を出て目的地まで自分の足で歩き、地域の自然に触れ、また、友達や先生と交流ができたようです。

いま、子供達は、間接、模擬体験が多くなり、特にバーチャル空間での体験・情報の洪水の中で生活しています。今回のような直接体験で、子供達が五感を働かせ、自然を捉えたり、不思議を感じたり、楽しさを共有したりすることは貴重です。また、遠足をやり遂げた達成感をもつ、集団活動を通して自律する態度を養う、といった点でも有意義でした。

この遠足では、郷づくりの皆さんをはじめ、見守り隊や保護者、教育大、看護学校の学生さんといった多くのボランティアの方々にサポートいただきました。高学年は出発前に、松林に関わる歴史や自然環境についてお話も伺いました。

春の遠足は、子供達が地域の方々とのつながりを感じ、交流する機会になりました。また、自分達の住む福間・福津の自然や施設のよさを味わうことができました。

遠足当日の行き帰りの安全指導をいただいた地域の皆様、保護者の皆様、学生ボランティアの方々、ありがとうございました。